

英論文

「Violation of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks」 （時計の時刻合わせから立証する特殊相対論の破れ） 承認までの経緯 （2010年11月）

この英論文は昨年(2009年)6月24日にカナダの物理学雑誌「Physics Essays」に投稿し、本年7月14日に承認され、同誌の9月号に掲載された。

私は今から10年ほど前にアインシュタインの特殊相対論を論破した英論文5を作成した時点で、現在の思考実験に到達した。それ以降私は本格的に論文を物理学の雑誌に掲載させる努力をしてきたが、やっとその努力が実った。

私が特殊相対論を論破する作業に着手したのは、今から30年以上も前のことである。私は1987年に最初の邦論文を自費出版して以来、現在までに類似した内容の論文を10遍ほど作成したが、最初の3遍は以下のものである。

1. 「内包性静止空間論」(1987年9月30日発行)
2. 「内包性静止空間論(改訂版)」(1988年10月31日発行)
3. 「内包性静止空間論(再改訂版)」(1992年3月31日発行)

しかしこれらの論文中で行なった思考実験では、特殊相対論を論破できないことに私自身が気づいたので、私は思考実験を改良して次の論文を作成した。

4. 特殊相対論をくつがえす思考実験 (1994年6月原稿作成・英論文公開中)

この論文ではすでに私が現在有する深層速度ベクトルと深層静止系(相対的絶対基準系)の認識に到達していたが、論文は様々な雑誌から掲載を拒否された。私はこの論文の思考実験で特殊相対論は論破できたと確信していたが、ある雑誌のレフェリーから、思考実験に出てくる天体が自転していないのは明らかにおかしいとの指摘を受け、この批判を回避する思考実験を提示する必要に迫られた。

しかしこの作業はそれほど難しくないと考えた。その気になればいつでも論文を書けると考えたことと投稿する雑誌が思い浮かばなかったことから、次の論文の作成は大幅に遅れた。

5. 特殊相対論の予測との不一致が生じる思考実験 (2000年12月原稿作成・英論文公開中)

この論文も様々な雑誌に拒否された。当時はまだ「Physics Essays」の存在も認識していなかった。

私は投稿する雑誌のあてがなくなったことから、論文をさらに短くしてレフェリーの理解が得やすいようにして再投稿するために、次の論文を作成した。

6. マイケルソン-モーリーの実験に最終的な回答を与える思考実験 (2006年1月原稿作成・英論文公開中)

この論文を「Physics Essays」に投稿した時は、レフェリーから完全に拒否された訳ではなかったのですが彼の質問や疑問に対して丁寧に答えたが、その後レフェリーからの返答がなかなかもらえず1年以上が経過したため、私はこの原稿を取り下げた。そしてしばらくして、次の論文を作成した。

7. 空間の等方性を検証する思考実験 (2008年1月28日原稿作成・英論文あり)

しかしこの論文は一週間ほどで邦文原稿を作成したため細部の詰めが甘く、この内容ではダメだと考えた私は、すぐに次の論文を作成した。

8. Breakdown of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks

(2008年3月12日投稿・英論文公開中)

当時「Physics Essays」では他の論文を審査していたので、この論文は「Physics Essays」以外のいくつかの雑誌に投稿したが、すべて掲載を拒否された。しかしここまでの段階で論文もかなり完成の域に近づいていたので、後はレフェリーの承認がもらえるまで、彼らの批判や疑問、質問等に丁寧に答えれば掲載は可能と考えられた。

次の論文は論文8に新たに第2章「なぜ思考実験が必要なのか？」を追加したものである。

9. Violation of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks

(2008年3月28日投稿・英論文公開中)

この論文も「Progress of Theoretical Physics」(日本)や「Physical Review A」を始めとする一流雑誌に投稿したが、論文の内容が本誌にはふさわしくないとか論文を他の雑誌に投稿するよう助言を受け、レフェリーの審査を受ける以前の段階で掲載を拒否された。

その当時も私は別の論文を「Physics Essays」に投稿していたので、その論文の審査結果が出るまでの間に私は論文9に大幅な修正を加え、論題は同じであるがかなり内容の異なる論文を作成した。

10. Violation of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks (Revised)

(2009年6月24日投稿, 2010年7月14日承認)

この論文も「Progress of Theoretical Physics」や「Physical Review A」を始めとするいくつかの雑誌に投稿したが、同様な理由で掲載を拒否された。

そこで私はこの論文を「Physics Essays」に投稿した。論文を投稿して掲載されるまでに1年以上が経過したが、その間7回の修正と5人のレフェリーとの論戦があった。最終的に承認された論文は、レフェリーの質問・疑問・批判等に応えるために加筆、改正されたために、当初投稿した内容とかなり異なるものとなった。

そこで私は読者の便宜のためと今後批判されたときの回答をすぐに提示できることも勘案して、英論文 10 の邦文原稿として以下のものを公開することにした。

A. 時計の時刻合わせから立証する特殊相対論の破れ I

(2009 年 6 月 24 日に投稿した最初の英論文の原稿)

B. 時計の時刻合わせから立証する特殊相対論の破れ V

(2010 年 4 月 3 日に投稿した 5 作目の英論文の概略)

C. 時計の時刻合わせから立証する特殊相対論の破れ VIII

(2010 年 6 月 21 日に投稿した最終・8 作目の英論文の原稿)

ここで B については A の第 I 章と II 章と内容が同じなので、読者に混乱が生じないように一部を記載しただけで、あとは削除した。したがって本原稿 B はその意味で英論文とは完全には一致していない。

A と B の英論文については、平成 23 年中には公開したいと考えている。邦文原稿 A, B, C に対応する英論文は、以下の D, E, F である。

D. Violation of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks I

E. Violation of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks V

F. Violation of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks VIII

(「Physics Essays」2010 年 9 月号に掲載)

しかしこれらの論文の出発点は論文 7 である。この論文から数えると論文 D は 4 作目の論文となり、論文 E は 8 作目の論文となる。さらに著作権の問題が発生することを回避するために、安全策を取って論題も論文 8 に戻す。すなわち英論文 D, E を G, H として公開する予定である。

G. Breakdown of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks IV

H. Breakdown of the Special Theory of Relativity as Proven by Synchronization of Clocks VIII